

コラム フィリピンボホール島地震による道路橋の被災調査

2013年10月15日にフィリピン国ボホール島を震源とするマグニチュード7.2の地震が発生し、道路橋に落橋を含む大きな被害が発生しました。道路橋を管理するフィリピン国公共事業道路省（DPWH）より被災状況の調査、ならびに復旧方法とその優先度評価等についての技術支援の要請が（独）国際協力機構（JICA）に寄せられ、これを受けた JICA からの要請により、構造物メンテナンス研究センターの星隈上席研究員が専門家として11月18日から22日までフィリピン国に派遣されました。

道路橋の被害は、ボホール島（徳島県の面積に概ね相当）の西側の島を周回する道路において生じていました。現地では、DPWH から調査要請のあった16橋の橋を調査しました（写真-1、写真-2）。

現地調査後、損傷が生じた橋の被災度の評価について DPWH に報告を行いました（写真-3）。また、フィリピンにおける橋の地震被害の特徴について見解を提示するとともに、今後のフィリピンの道路橋の耐震対策において留意すべき事項を提言しました。これらの報告に対して、DPWH の Cabral 次官補からは、「フィリピンは日本と同様に地震や台風等の災害が多く、被災経験を踏まえ、バリエーションな道路構造となるように復旧していきたい」との表明がなされました。

フィリピンは、日本と同様に地震や台風による災害を受けやすい地理的環境にあります。日本の道路橋は過去幾多の震災経験を受けながら耐震設計技術が発展してきた歴史があり、フィリピンとも共有すべき技術情報が多いと考えられます。今回の調査活動等を通じた国際的な技術支援が、今後のフィリピンにおける災害に強い道路整備の一助になればと考えています。



写真-1 落橋した橋の調査



写真-2 地盤の変状に伴って生じた橋脚の傾斜



写真-3 公共事業道路省幹部への調査報告と今後の耐震対策への助言